

理事に就任して

応用地質株式会社 東北事務所長

上野 圭祐



はじめに

令和3年4月に東北地質調査業協会の理事を拝命しました応用地質株式会社の上野圭祐です。

東北とのかかわりは、平成26年4月に福島支店に着任したのが始まりです。早期の震災復興が要請される場所で、様々な条件下での業務があることに驚きつつ復興に携わって参りました。令和2年に東北事務所（仙台）に異動してきました。昨年から新型コロナの影響で協会活動への参加も難しい状況ではございますが、東北地質調査業協会の会員として微力ではございますが、東北地方の発展に貢献できるよう取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

自己紹介

出身地は、福岡県福岡市です。日本史の教科書に出て来る「漢委奴国王」の金印が発掘された所や、万葉集の「いざ子ども 香椎の渦に 白妙の 袖さえぬれて 朝菜摘みてむ」（大伴旅人）などで出て来る地域です。福岡の観光地としては、菅原道真公を祭った学業の神様で知られる太宰府天満宮。グルメでは全国的にも有名な博多（長浜）とんこつラーメンや、いろんな種類の屋台などがあります。お祭りも700年の歴史がある博多祇園山笠などがある魅力的な街です。東北からは

遠い雰囲気はありますが機会がありましたらぜひ一度お越しになって下さい。

地元大学の法学部出身で、就職するまで福岡で過ごしました。応用地質への入社が決まり、1年目は福岡に着任しました、2年目は佐賀、その後宮崎、福岡へ異動し、九州管内で23年在職していました。その後、福島に異動し東北管内で9年目を迎えました。

入社以来、営業担当者として従事してきました。特に記憶に残ってるのは、佐賀県にいた頃、一級河川六角川関連業務です。有明海にそそぐ六角川は、干満差が最大6mもあったため潮間作業が普通のこととして考慮されていました。ここを意識せずに作業計画を立てると、満潮時に資材が水に浸かることもあるため、常に潮位表を携帯して作業を行いました。調査や施工に地域の自然条件が大きく影響する貴重な経験でした。また、豪雨で冠水することも多く、台風の度に河川が増水し周囲の田んぼへの流水が発生し、そこに大きな鯉などが流されていく情景は何度も見ました。しかし、在籍中に河川整備が進み、豪雨の際にでも危険を感じることなく車で走行できた時ほど、土木の偉大さを感じ、自然と社会を結ぶ仕事をしていることを実感したことはありませんでした。

思うこと

これまでの仕事を振り返ると、地質調査会社とは深い専門知識と想像力を持った技術集団だということです。特に災害の際などに感じるのは、「木を見て森を見ず」という諺がありますが、地質調査の専門技術者は、まさにその逆で、災害の現場に立ち会い地形図等の資料を用い、地表踏査を行うことで、目に見えない災害の根源、影響範囲を見出し、短期間に対策工立案まで行い、現地調査の実施を通じて検証を行い設計に寄与することができるシビルエンジニアです。地質調査を業務として実施している協会の皆様は、このコンサルティングができる素晴らしい知識と経験を持った方々です。今般、地球温暖化に起因すると言われる豪雨による災害は、西日本の多雨地帯のみならず、東北地方や、北海道を含む全国で被害が発生するほどになってきています。このような災害は、地質の知識をもって対応してくことが、これまで以上に大切になってくると考えています。自然災害や、インフラ整備に深くかかわってきた「地質調査」を世の中に知って頂き、持続的な社会への貢献を行って行くことも自分の役割のひとつとも考えています。

終わりに

東北に赴任して以来、この地の皆様の誠実さ、温かさに感激しています。いろんな場所で仕事をしてきましたが、この仕事は住んでいる場所を愛することが大事な要素のひとつだと感じております。私も東北を愛し、協会の一員として、東北地質調査業協会および、地質調査業の発展に、少しでもお役に立てる存在になれるよう日々努力して参ります。今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を頂きますように、よろしくお願い致します。

以上

理事に就任して

川崎地質株式会社 北日本支社長
吉田 透



はじめに

令和3年度より、太田史朗の後任として、東北地質調査業協会の理事に就任いたしました川崎地質株式会社北日本支社の吉田と申します。本協会活動を通して業界の発展、地域貢献に取り組んで参る所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。

私自身、初めての東北勤務であり、早くこの土地に慣れたいと思った矢先、新型コロナ禍に伴う「まん延防止等重点措置」「緊急事態宣言」と行動が制約され、何とも歯がゆいスタートとなりました。寄稿時点では変異株の広がりや今後の社会的影響など、いまだ不安を抱える日々が続いておりますが、それらが払拭され、普通の日常が一日でも早く戻ることを祈念しております。

1. 自己紹介

出生地：北海道札幌市

年齢：昭和42（1967）年生 54歳

1) 幼少期

私は札幌時計台前の食堂の2階で生まれました。この時計台は、ビルに囲まれ景観がよくないことから「日本三大がっかり名所」という悪評がありますが、私はお勧めします。というのも、日本最古の時計台という建築物としての重要性もさることながら、建物の中が資料館となっていて、北海道開拓の歴史を学び、感じることができるからです。

札幌時計台の正式名称は「旧札幌農学校演武場」です。札幌農学校は北海道大



学の前身で、北海道開拓の指導者を育成する目的で明治9（1876）年に開校されました。この時計台はクラーク博士の提言により、中央講堂として明治11（1878）年に建設されたものです。

5月10日は「地質の日」であることをご存じの方も多いと思いますが、明治9（1876）年、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。こうした日本における地質学の歴史の舞台でもあり、多くの偉人達と同じ場



日本蝦夷地質要略之図

所に立っている感慨深さで、個人的には特別なパワースポットとして、幾度となく足を運んでいます。

生まれた家の目の前にあった札幌時計台を力説しましたが、実は1歳を迎える前に虻田郡真狩村に引っ越したため、都会の記憶は一切なく、自然児として成長しました。

真狩村と言えば、年配の方は演歌の細川たかしさんの出身地として思い出す方がいるかもしれません。幼少期の私の記憶に残っているのは、雪、イモ、羊蹄山です。真狩村は豪雪地帯で、一晩で玄関の扉を埋めるほどの雪が積り、家から出られなくて困っている親の姿を覚えています。特産物はジャガイモで、今では品種も多くとても美味しいものがありますが、当時は男爵かメークインの2種でした。小さい時からふかしたイモにはバターとイカの塩辛は必須で、今でもお酒のつまみとして好んで食べています。



羊蹄山（標高1898m）は、日本百名山の一つであり、別名蝦夷富士とも呼ばれる均整のとれた成層火山です。活火山ではありますが、気象庁の常時観測対象とはなっていません。住んでいた家はこの麓にあり、幼稚園児の私は天にも届くような山を見上げ、とても綺麗だと思いつともに、何か得体の知れない怖さも感じていました。今は、日本列島や火山の成り立ちに関する知識と、噴火災害という事実を目の当たりにし、その恐ろしさを具体的に感じるができます。幼少期に感じた怖さの正体は、火山国に住む日本人の自然に対する尊敬と畏怖というDNAからきていたものかもしれません。

2) 少年期

幼少期を過ごした真狩村の後は、釧路市、浦河町、稚内市、網走市と北海道内を移り住み、小学校～高等学校まで転校が多くありました。一つの街に落ち着いていなかったため、部活を継続できなかった反面、新しくスタートできる機会も多く、いろいろなスポーツが経験できました。野球、スピードスケート、弓道、軟式テニス、陸上、羽球などです。体を動かすことが大好きで、社会人になってからはサッカーやフットサルにも挑戦しました。

3) 青年～壮年期

青年期の前半は大学生活、後半は社会人としてのデビューとなります。大学では鉱山開発技術を習得することを目的とした学科で学びました。鉱山開発といっても必要とされる学問は、地質や鉱物のみではなく、機械、流体、化学、土木ほか多岐に渡るため、吸収できなかった分野も少なからずありました。それでも何とか必要単位を取得し、卒業後、現在所属する会社に就職できました。以降、壮年期に入り、現在に至っております。

前述のとおり小生は道産子ですが、父方、母方の祖先はともに仙台藩に仕え、明治維新後、北海道に入植したと聞いております。母方の祖先は仙台藩の会計係だったそうで、今、この仙台で会社の運営に携わっているのも何かのご縁であろうと感じております。

情報通信網の急速な発展に代表されるように、世界中が連動している昨今であっても、人にとって一番大切なものは家族でありそれを育てきた（あるいは育ていく）故郷であると思います。故郷の集合体が地方、さらに国へとつながり、一人一人の強い思いが国力になると信じております。50歳を過ぎてやっとこのような考えに至りました。

2. 会社紹介

弊社は、昭和18（1943）年に合資会社川崎試錐機製作所の発足を始まりとし、今年で創業79年目を迎えます。戦後の昭和26（1951）年にはボーリング工事と地質調査業を目的とした川崎ボーリング株式会社を東京に設置し、地質調査に特化した建設コンサルタントとしての業務経験を積み重ねながら、昭和45（1969）年に現在の川崎地質株式会社に商号を改めました。更に同年には物理探査部の設置、昭和48（1973）年には海洋調査部の設置と、活躍の場を全国・海外へと広げ現在に至っております。

弊社の創業者は、終戦まで北支の青島（今の中国）の奥地に於いて、水源井戸の鑿井、地下水調査に従事していたと聞いております。敗戦後、日本中が焦土と化し多くの人が茫然としている中、被害を逃れたボーリングマシンを駆使し地下資源調査に尽力したそうです。先人らの精神力と行動力には尊敬の念に堪えなく、戦後の日本の奇跡的な復活は不撓不屈の精神で志を貫いた多くの日本人の底力があったからこそと思っております。

創業以来大切に守り続けているのが「現場主義」です。例えば災害が発生した際、その原因は現場でしか究明することは出来ません。いかに技術が進歩しても、机上の数字や理論だけでは、正しい答え・対策を提案することは不可能です。これからも現場に寄り添いながら地球を丸ごと診断できる「アースドクター」として、信頼される企業であり続けられるよう精進して参る所存です。

3. 若手技術者の皆様へ

戦後の復興からその後のインフラ整備においては、地質調査に関わる我々の諸先輩方が、多くの苦勞を重ね現在の土台を作ってくれたことは言うまでもありません。そして、現在の技術者には、その培われた経験と技術を受け継ぐと共に、更にはそれらを発展させ将来の技術者へバトンを渡すという大切な役割があります。本文を読まれている若い技術者の皆様が、仕事を進める上で悩み立ち止まってしまう事が今後あるかもしれません。そんな時には、自分は大切な役割を担った必要とされる人間であること、自分のやっていることは未来の誰かの笑顔に必ずつながっていく事を思い出して下さい。

おわりに

自己紹介の部分など、多くがとりとめないお話になってしまいましたこと、お詫びいたします。昭和38（1963）年1月に仙台出張所（現北日本支社）を設置して以来、関係する皆様方には、数多くの御協力を頂いて参りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。引き続き御指導御鞭撻の程お願い申し上げますと共に、更なる信頼関係の元努力させて頂く所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



羊蹄山